

所在地：目黒区碑文谷 1 - 18 - 2 東急目黒線 西小山駅 徒歩 15 分

学校名：碑(いしぶみ)小学校		作成年月日：H.10.07.04	調査日：H.16.7/20.7/23
環境概況	植 物	<ul style="list-style-type: none"> ・草取りにより水際を覆っていたキショウブ、チゴザサが継続的に除去され植物密度は良好になっている。 ・ただし、水質の浄化に寄与していたコカナダモの回復が弱い。 	
	動 物	<ul style="list-style-type: none"> ・メダカなど生き物は確認できなかった。 ・オオシオカラトンボなどのトンボの飛来はあった。 	
	水 質	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年の7月と同様に濁りが著しくなっていたが、7月末には、透明度が増していた。しかし、落ち葉の堆積は依然として多く、水質改善のためには随時除去が必要である。 	
	周辺環境	<ul style="list-style-type: none"> ・池周りにはハギ、ヨウシュヤマゴボウ、ノカンゾウなどが繁茂し、水面を取り囲んでおり、草本の生育は良好で、水辺以外の植物の観察環境として活用できる状態である。 ・西側樹木の一部が伐採され、落ち葉の減少が期待できる。 	
	土 壌	<ul style="list-style-type: none"> ・池周りでは、草取り時に一緒に泥が除去され補充できていないため、シートが露出し水辺植物の生育環境が再生されていない。 ・水深は落ち葉が堆積し、20cm程度である。 	
活動状況	管理体制	<ul style="list-style-type: none"> ・4年生が観察、管理を行っており、勉強会を行いながら取り組んでいる。 	
	管理状況	<ul style="list-style-type: none"> ・水際を覆っていたキショウブ、チゴザサが継続的に除去され植物密度は良好になっているが、水際の土壌が除去されたままで、水草の生育が回復できていない。 	
	利用状況	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も定期的な観察が予定されており、継続的な観察活動が期待できるが、場所が校舎の裏であるため、作業担当以外の児童が観察する機会が提供できていない。 	
今後の予定・計画		<ul style="list-style-type: none"> ・来年度より、校舎の建て替えにより、ビオトープが撤去される予定となっている。 ・既に、再整備の予定地が確保されていることから、来年度では撤去される前に、ビオトープ内の生き物や水草の移動を行い、再整備に備える活動を行う必要がある。 	

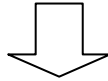
作成後の主な活動経過

年月日	活動内容	参加形態
H. 10.07.04	池の作成	5・6年生
11.	水草取り	担当教師
09～	ビオトープ新聞作成	作成に参加した6年生
12.	水草取り	担当教師
13.10.18	ビオトープ活用の勉強会	教師
14.06.	草取り	教師
.06.12	ビオトープ活用の勉強会	4年生
15.05.	草取り	4年生
16.06	草取り	4年生

調査時（平成15年6月）



水が茶色く濁り、メダカ等の生きものが確認できなかった。これは枯れ葉による富栄養化がコカナダモや水草などによる水質浄化機能を上回ったためと考えられる。早急な対応が必要である。



調査時（平成16年6月）



昨年と同様に、草取りを実施した直後で、水の濁りが著しく、メダカなどは確認されなかった。また、落ち葉の堆積による水質悪化が見られ、コカナダモや水辺の草本の育成が必要な状況である。

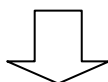
調査時(平成16年7月上旬)



水質の濁りが著しく、落ち葉の除去と適切な水の補給が必要になっている。



キショウブはある程度抑制されているが、陰になりやすく、将来的には他の水辺の植物(セリ、サンカクイなど)に置き換えることが望まれる。



調査時(平成16年7月下旬)



水質はある程度透明度を増しているが、水深は浅く、落ち葉の除去が不十分で、改善作業や水の補給が必要である。

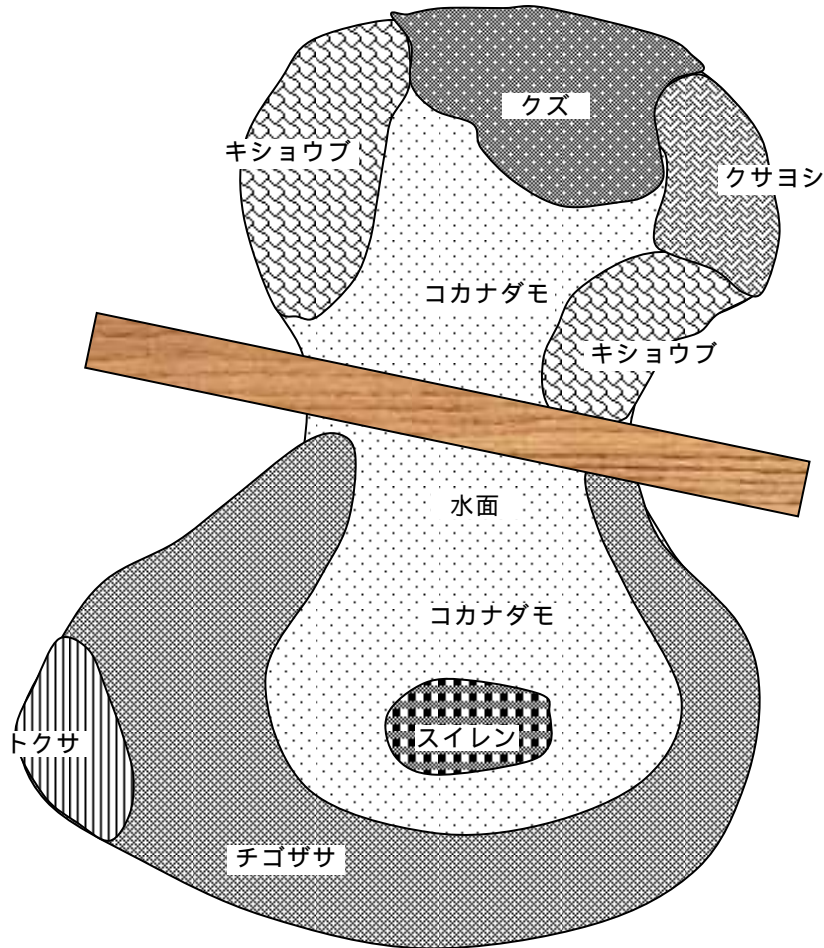
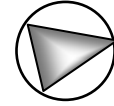


隣接地の樹木伐採により、明るさが改善されたが、水際の植物の繁茂は夏季に著しいため、秋にはキショウブの根部分からの除去など抑制作業が必要である。

碑小学校

<平成13年度>

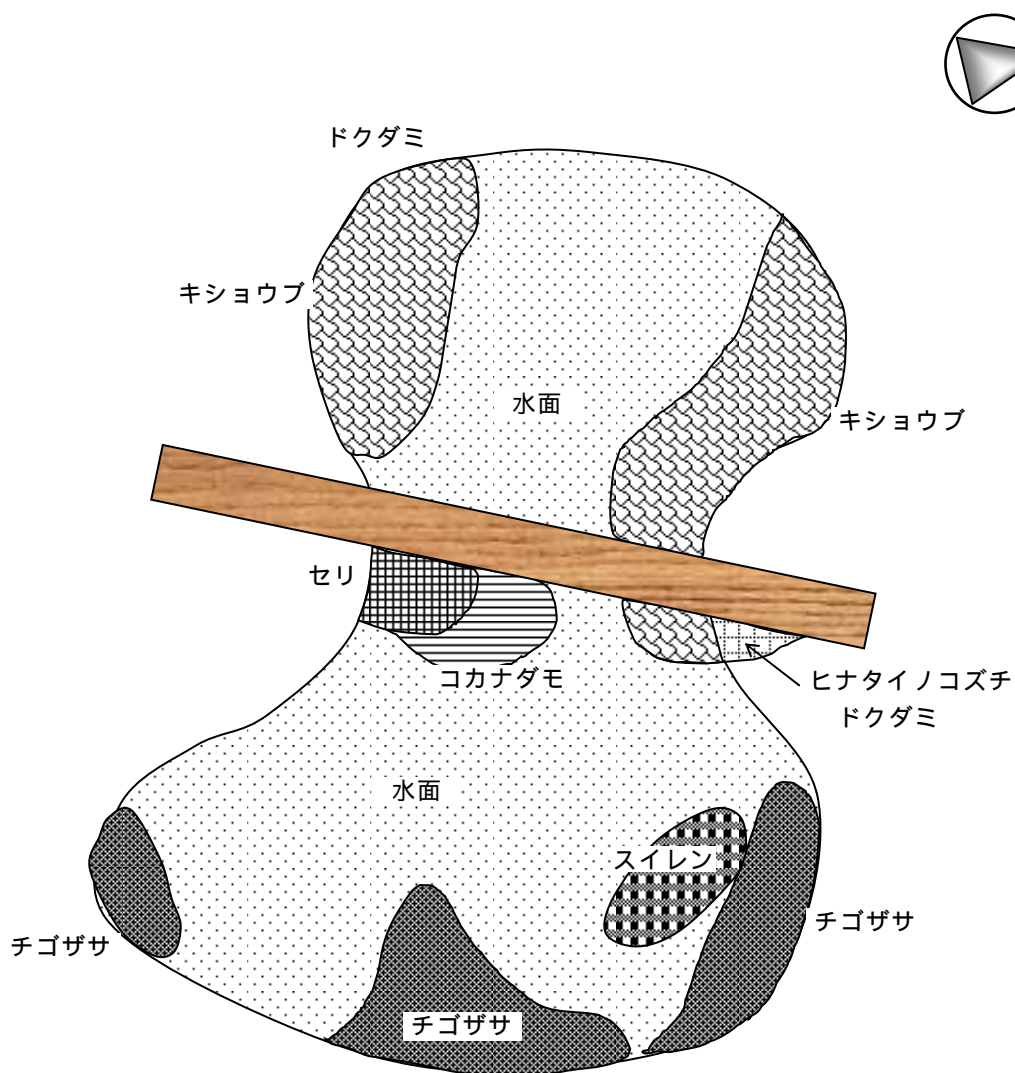
寺



水面、水際及び周囲ともに植物が繁茂し、水面が見えにくい状況である。植物や動物の多様性を維持するためには、限られた植物の繁茂は制限する必要があり、水中のコカナダモ及び水際のチゴザサは90%以上の除去を行う必要がある。また、水際については、観察ができる部分、植物の生育を促進する部分の区分けを行い利用管理する必要がある。

<平成14年度>

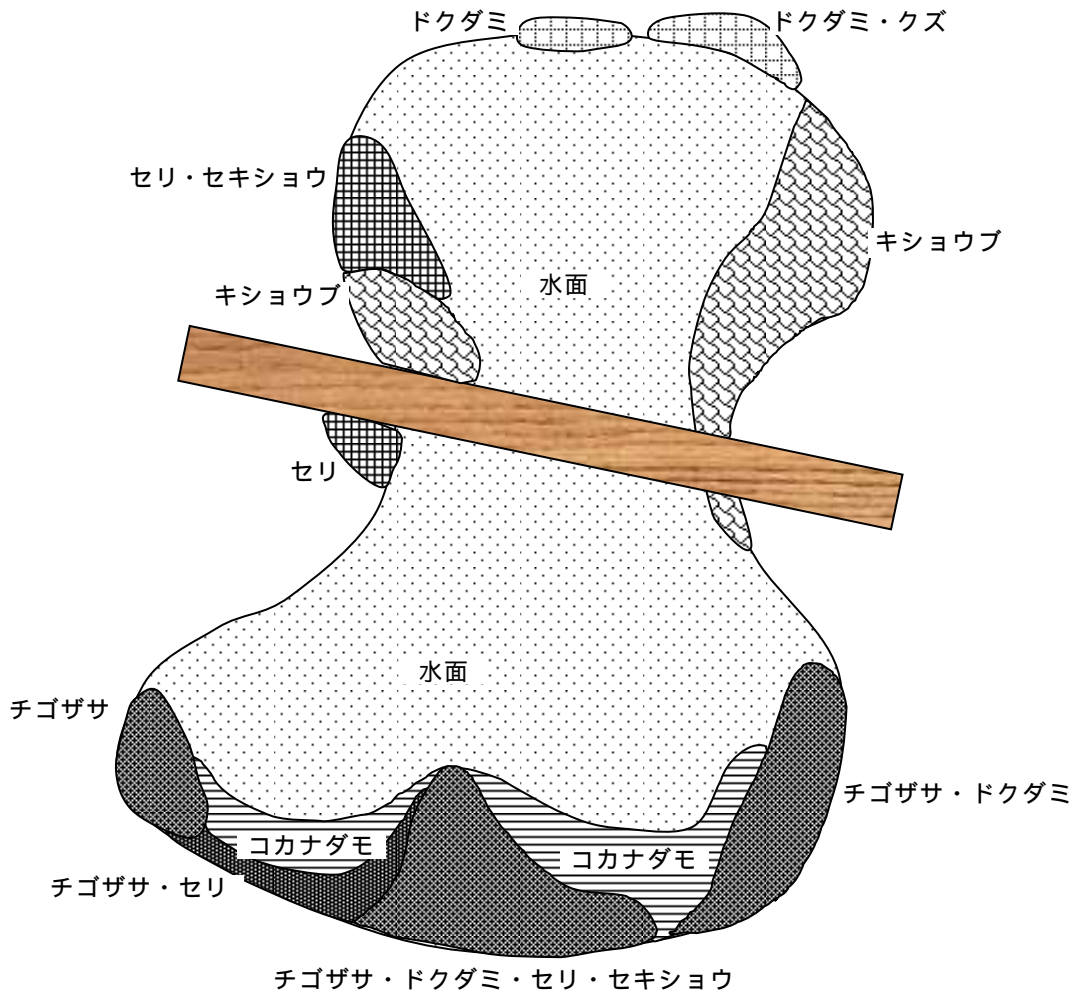
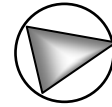
寺



除草が行われ、以前に比べ、水際に近寄りやすくなり、自然観察が容易になった。ただし、キショウブについては依然として繁茂しすぎて、さらに除去する必要がある。

これら繁茂する種が多いため、ビオトープの植物の種類が単調になっており、水際に低茎の草本種などを植え付けると環境の多様性を向上できる。

水中の落ち葉の量が他校よりも多い。これは、寺の樹林に隣接しているためだが、水質維持の点から、適宜除去する必要がある。



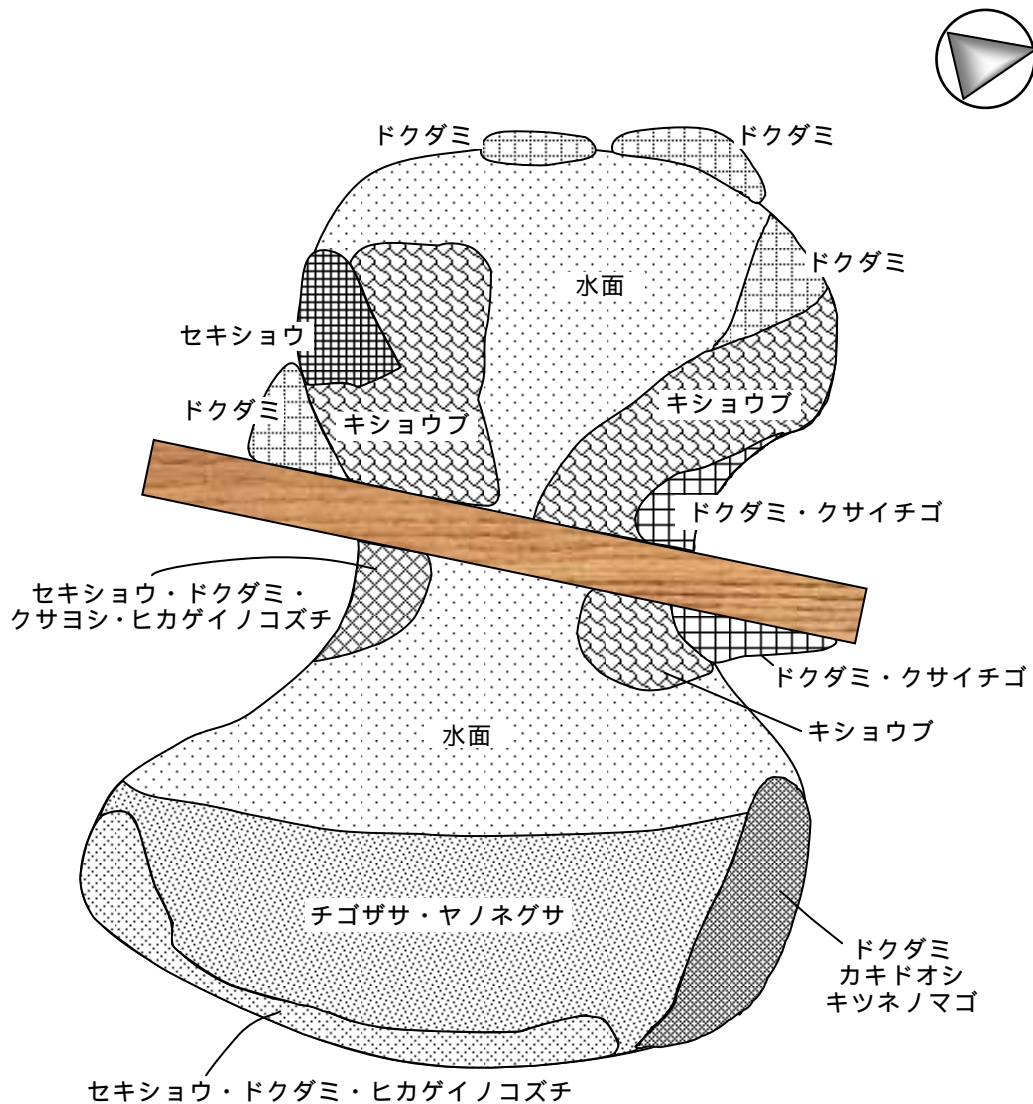
児童による除草作業が行われ、水際に近寄りやすくなり、自然観察がしやすくなっている。キショウブも抑制され現況のままが良いが、また、繁茂する可能性があり、水面維持のために適宜除草を行う必要がある。

水際は、除草の時に土も一緒に除去されてしまい、草本が生育しにくくなり、一部にドクダミの侵入なども見られる。水際の草本を多様にするためには、池内の泥上げを行って補ったり、田んぼ土を補充するなどの作業が必要になっている。さらに、低茎の草本類などを植えつける方法も考えられる。

7月の調査時には茶色い濁りが著しく、透明度がほとんどなくなっていた。これは水中の落ち葉の量が非常に多いことと、水中のオオカナダモの除去により、水質浄化作用が低下したためと考えられる。そのため、当面は水中の落ち葉の除去を行い、十分に水の補給を行って、オオカナダモの繁茂を待つことが考えられる。

<平成16年度>

寺



キショウブは抑制され池を覆わない環境ができているが、根を全て除去しない限り再度繁茂する可能性があるため、定期的な除草を行う必要がある。

水際は、ドクダミ、クサイチゴ、ヒカゲイノコズチなど水草ではない草本類の繁茂がみられ、適宜、給水による一定範囲の水域確保が必要である。

池は茶色い濁りが著しく、透明度がほとんどなくなっていた。これは、水中の落ち葉の量が非常に多いことと、水中のコカナダモの除去により、水質浄化作用が低下したためと考えられる。そのため、当面は水中の落ち葉の除去を行い、十分に水の補給を行って、コカナダモの繁茂を待つことが考えられる。